

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2学年は、文学的な文章について、登場人物の心情の変化や相互の関係性を丁寧に捉える授業を展開したことにより、文学的な文章の内容を読み取る力、特に表現から心情を読み取る力が向上している。
- ・第3学年は、文法・語句、漢字、説明的・文学的文章の読み取りに力を入れたことにより、全体的に目標値を上回っている。

(2) 課題

- ・第1学年は、全体的に目標値を上回っている。「情報の扱い方に関する事項」に課題が見られる。
- ・第2学年は、説明的な文章において、文章を読解した上で、必要な情報を文章中から選択して内容を解釈する力に課題が見られる。
- ・第3学年は、全体的には目標値を上回っている。資料から読み取ったことと、それについて思ったことを書く力に課題が見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	上回っている	/	/
第2学年	前年度より 1. 3ポイント 下回っている。	上回っている。 (第1学年時)	/
第3学年	前年度より 4. 1ポイント 上回っている。	前年度より 8. 1ポイント 下回っている。 (第2学年時)	上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文法、語句に関する事項は熟語の成り立ち・敬語を除き、よくできている。漢字の書きに関する事項は学力向上の余地がある。	文章を読み取る力、読み取ったことを文章にする力は満足できる。聞き取りの問題で話の内容を捉え、質問をする記述の問題は平均的である。	令和7年度より比較データなし

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の読み書き、文法・語句に関する事項はよくできている。漢字の書きは、さらなる学習定着度の向上が期待される。	文章を読み取る力はおおむね満足できる。 話の要旨を捉えたり、自分の考えを言葉にしたりすることに課題が見られる。	令和7年度より比較データなし

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の読みはよくできているが、書きについては学力向上の余地がある。 文法・語句の問題においては目標値を上回っているが、古典の理解については課題がある。	登場人物の言動の意味について考え、内容を解釈する能力は高い。 資料から読み取ったことと、それについて思ったことを書く力には学力向上の余地がある。	令和7年度より比較データなし

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
毎週の漢字テストを継続して行い、間違い直しを徹底する。また、その際に、間違いやすいポイントを事前に説明して学習内容の定着をはかる。	文章中の言葉や情報を精査し、場面に応じて適切に選択することができるように、表現の効果に着目し、丁寧に読解する。	情報や言葉から、根拠を明らかにして自分の考えを持つために、グループワークやICT等で広い意見を取り入れ、触れる機会をつくる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
毎週の漢字テストを継続する中で、間違いやすい漢字を都度解説したり、解き直しをさせたりすることでさらなる定着を図る。	各授業の最後に学習内容を自分でまとめたり、文章を書く授業を展開したりして、自分の考えを文章にする力を身につけさせる。	他者の意見を見たり聞いたりする機会を増やし、自分の考えを広げたり深めたりすることで、進んで発言できる学習環境を整える。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
毎週漢字テストを継続して行い、間違い直しを徹底して定着をはかる。語句を学ぶ際、その類義語や対義語についても解説を行う。	古典の授業において基本的事項や、意味を読み取る学習に力を入れる。資料や文章を読んで、自分の考えを書く機会を増やす。	互いの意見を伝え合ったり表現の良いところを認め合ったりすることで、さらに考えを深め合う活動を取り入れる。

令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2学年は、1年次の課題を踏まえ、基礎知識の定着を図る取り組みを増やした。また、各種統計資料を適切に読み取り、資料から読み取った事柄を根拠にした考察を増やした。その結果、既習事項を活用した思考・判断・表現に関わる力に向上の兆しが見られる。
- ・第3学年は、2年次の課題を踏まえ、各種資料を比較・関連させながら様々な情報を読み取る学習活動を増やした。また、基礎知識の定着を図る取り組みを増やした。その結果、知識・技能に関わる力に向上の兆しが見られる。

(2) 課題

- ・第1学年は、観点別に見ると「知識・技能」の観点において、身に付けた知識・技能を、他の社会的事象と関連付けて「活用する力」に改善の余地が見られる。
- ・第2学年は、観点別に見ると「思考・判断・表現」の観点において、既存の知識や情報、資料を用いて他の社会的事象と関連付けて「考察する力」に改善の余地が見られる。
- ・第3学年は、観点別にみると「思考・判断・表現」の観点において、様々な社会的事象を関連付けて考察し、根拠を基にして「表現する力」に改善の余地が見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	上回っている。	/	/
第2学年	前年度より 2ポイント 下回っている。	上回っている。 (第1学年時)	/
第3学年	前年度より 0.2ポイント 上回っている。	前年度より 0.4ポイント 上回っている。 (第2学年時)	上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
おもに歴史的分野と公民的分野の「政治に関する設問」に対する知識・技能の定着に課題が見られる。	公民的分野のうち、おもに「選挙権年齢引き下げに関する設問」について、資料を基に考察する力に課題が見られる。	令和7年度より比較データなし

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
おもに地理的分野の「世界の姿」や「大陸と海洋」など、1年次初期の学習内容の定着と理解に課題が見られる。	おもに「複数の資料」から設問に対する情報を読み取り、考察したり判断したりする力に課題が見られる。	令和7年度より比較データなし

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
おもに歴史的分野の「為政者の政策」や「外国史」を問う設問に対する正答率が低く、その定着と理解に課題が見られる。	おもに地理的分野の「資源」、「エネルギー」、「人口」などについて、様々な資料を関連付けて考察しながら判断する力に課題が見られる。	令和7年度より比較データなし

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「政治」という社会的事柄について、より身近に捉えられるように、授業の導入時や発展的課題として「時事問題」を適宜学習活動に取り入れる。	地理的・歴史的分野の学習時に「政治的な目線」や「現代の政治制度との比較」をする機会を取り入れた考察の時間を設ける。	学習課題に対して見通しをもって取り組みながら、「構想をもたせる学習活動」を増やすことで、主体的に考察できる力の伸長を図る。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
適宜振り返りながら学び直す、復習的な学習活動を取り入れることで、内容の定着と深化を図れる授業運営を行う。	複数の資料を用いて論述したり、論拠となる資料を見出したりする学習活動を増やし、多面的・多角的に取り組める学習課題を設ける。	自ら学習課題を見出したり、構想を練る時間を設けたりしながら「学習調整力」の伸長を図る。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元導入時や振り返りの学習時に「構想」の時間を適宜設けることで、歴史的背景や社会情勢を踏まえながら、当時の為政者達による政策について深められる授業運営を行う。	適宜復習的な学習活動を取り入れることで、内容の定着と深化を図る。また、社会的事象に関する判断力の育成のために、様々な資料を提示し、情報の取捨選択と情報活用能力の育成に努める。	公民分野において、時事問題を活用して興味・関心を高めたり、身近に起こる様々な社会的事象から学習課題を見出させる活動を取り入れることで、主体性の伸長を図る。

令和7年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2学年では、基礎的内容の正答率は目標値を上回った。また、活用問題や記述問題の達成度に課題がある。
- ・第3学年では、すべての観点・すべての領域で正答率が目標値を上回っていた。特に観点では「思考・判断・表現」、領域では「図形」の正答率が目標値を大きく上回っていた。

(2) 課題

- ・第1学年では「思考・判断・表現」に関する正答率が他の観点に比べて低かった。文章を記述するなど、自分の考えを言語化して発表する機会を設ける。
- ・第2学年では、解答形式が記述の問題の正答率が低かった。自分の考えを説明する機会を多く取り入れ、言語活動の充実を図る。
- ・第3学年では、記述形式で答える問題の正答率が目標値を下回っていた。自分の考えを深めるだけでなく他者に伝える場面を多く取り入れ、言語活動の充実を図る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	上回っている	/	/
第2学年	前年度より11.4ポイント下回っている。 (第2学年)	上回っている (第1学年時)	/
第3学年	前年度より1.0ポイント下回っている。 (第3学年)	前年度より0.4ポイント上回っている。 (第2学年)	上回っている (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
多くの問題で目標値を上回るまたは同程度だった。最小公倍数を求める問題では目標値を下回っている。	すべての問題で目標値を上回っている。全国の傾向ではあるが、グラフを比較し読み取ったり、説明したりする問題の達成率は他の問題と比べて低い。	令和7年度より比較データなし

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「数と式」「データの活用」の問題では目標値を上回っているが、「図形」のうち、特に作図の問題では目標値を下回っている。	「空間図形」の問題では目標値を上回っているが、「比例・反比例」の問題では目標値を下回っている。	令和7年度より比較データなし

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的に目標値を上回っているが、「数と式」「データの活用」の問題のいくつかで目標値を下回っている。	全体的に目標値を上回っているが、「データの活用」の問題で目標値を下回っている、	令和7年度より比較データなし

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校での学習内容を含めた既習内容を確認する機会を多く取り入れ、新しい内容と結びつけられるような指導を行う。	グラフを読み取り比較する等の活動や、自分の考えを言語化し説明する活動を多く取り入れる。	生徒の興味・関心をひくような身近な題材を授業で扱い、自分の考えを発表する場を多く設ける。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習内容を振り返る機会を多く取り入れ、定着をはかる。また、学習内容同士の関係を印象付けられるような指導を重点的に行う。	文章から立式や資料から読み取る場面などで、自分の考えを説明する機会を多く取り入れ、言語活動の充実を図る。	解法が複数ある問題を取り扱う際、自分の考えを説明する機会を多く取り入れ、言語活動の充実を図る。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「数と式」の分野をはじめとした計算問題、および「データの活用」で扱う用語や数量について復習する機会を多く取り入れる。	「データの活用」の学習では、既習事項を復習するとともに、それをもとに説明・表現する活動を取り入れる。	生徒の興味・関心をひくような身近な題材を授業で扱い、自分の考えを表現・発表する場を多く設ける。

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第1学年は、動物の体のつくりと働き、生物と環境、月と太陽の領域で目標値を上回った。思考・判断・表現の観点で目標値を上回った。
- ・第2学年は、全ての観点・領域で目標値を上回れなかったが、光の性質は-1.3%と、目標値に迫れた。
- ・第3学年は、化学変化、生物と細胞、植物の体のつくりと働き、前線の通過と天気の変化、日本の気象、電流と磁界の領域で目標値を上回った。思考・判断・表現の観点で目標値を上回った。

(2) 課題

- ・第1学年は、物の燃え方、大地のつくりと変化、水溶液の性質の領域で目標値に10%以上届いていない。
- ・第2学年は、動物の分類、水溶液の性質、地層の領域で目標値に10%以上届いていない。
- ・第3学年は、気象の観測、電流の正体の領域で目標値に10%以上届いていない。
- ・言葉による表現だけでなくモデルや図を自分で作成し、表現する活動を増やすことで、視覚的に理解出来るようにしていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	正答率の校内平均は、正答率の目標値よりも3.6ポイント下回っている。	/	/
第2学年	正答率の校内平均は前年と比較して23.2ポイント下回っている。	(第1学年時) 正答率の校内平均は、正答率の目標値よりも1.3ポイント上回っている。	/
第3学年	正答率の校内平均は前年と比較して9.9ポイント下回っている。	(第2学年時) 正答率の校内平均は前年と比較して0.5ポイント上回っている。	(第1学年時) 正答率の校内平均は、正答率の目標値よりも5.2ポイント上回っている。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回っている。 物の燃え方や大地のつくりと変化の領域に関する知識の定着に課題が見られた。	目標値を上回っている。 実験の結果から葉がデンプンをつくる条件を推測する領域で成果が見られた。	令和7年度より比較データなし

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前年度より24.5ポイント下回っている。 生物、物理、地学分野など、多くの領域で課題が見られた。	前年度より22.5ポイント下回っている。 化学分野、身の回りの物質、気体の性質など、様々な領域で課題が見られた。	令和7年度より比較データなし

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前年度より18.4ポイント下回っている。 物質の成り立ち、気象観測、電気の性質・電流の正体の領域での達成率が低い。	前年度より0.7ポイント上回っている。 化学変化、植物の体のつくり、前線の構造の領域での達成率が高い。	令和7年度より比較データなし

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識の蓄積が必要なので、確認問題やドリルなど、定着のための方策をとる。また、観察・実験の体験を多く積ませる。	観察・実験のレポートなど、文章で記述する機会を増やす。またその際に文章での記述方法についても指導する。	教科書の事実を伝えるだけでなく、それを明らかにする方法について考える機会をもつ。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業内でも、用語の確認の時間を作る。一問一答形式で繰り返し覚えるよう指導する。また、観察・実験の体験を多く積ませる。	観察・実験のレポートなど、文章で記述する機会を増やす。またその際に文章での記述方法についても指導する。	教科書の事実を伝えるだけでなく、それを明らかにする方法について考える機会をもつ。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
一度学習した課題を反復練習するためのドリルを多用し、知識の定着をはかる。観察・実験の体験を可能な限り多く積ませる。	課題に対して深く考え、即答するのではなく、自分の考えをしっかりと記述し、まとめた上で、お互いに発表しあい、より深く課題を掘り下げられるようにする。	課題に対するアプローチの仕方を変えるなどして、生徒の興味関心を引き起こすような工夫が必要。理科の楽しさを伝えていく。

令和7年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・自分の考えについて、音楽的要素と結び付けた根拠も併せて表現できる生徒が増えた。
- ・発声練習を通して生徒の技能を高めることができた。

(2) 課題

- ・歌うことが好きな生徒は多いが、表現の工夫をする生徒が少ない。
- ・実技テストなどの本番で自分の力が出し切れない生徒が多い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年			
第2学年			
第3学年			

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
男女ともに歌唱の技能を高めていく必要がある。知識については習熟度に差が見られる。	歌唱分野においては、技能の向上とともに表現の工夫をさせる必要がある。鑑賞分野においては音楽の構造をと関連付けて聴く力を養う必要がある。	どの活動も真面目に取り組むが、自分の力をのばすための工夫をさせる必要がある。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
男女ともに歌唱の技能が高い生徒が多い。知識については習熟度に差が見られる。	想像力豊かな生徒が多く、それを歌唱表現に生かすことができる生徒も多い。鑑賞分野において、聴き取ったことと感じ取ったことを関連付けて表現する力は弱い。	音楽が好きな生徒が多く、全ての活動において積極的に取り組む姿勢が見られる。また協力して活動する様子も見られる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
男女とも前向きに活動に参加しているが、全体的に歌唱の技能を高めていく必要がある。知識については習熟度に差が見られる。	自分から積極的に歌唱表現を工夫しようとする生徒が少ない。鑑賞分野において、時代背景や音楽の構造を根拠に感じ取ったことを表現することができる生徒が多い。	歌唱分野においては、男女ともパートで協力し活動を行うことができている。鑑賞分野においては、発言が少なくなる傾向が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様々な発声練習を継続していくことで、発声を安定させ技能を伸ばしていく。新しい題材でも既習事項と関連して考えさせたり、活用させたりすることで確実な力を身につけさせる。	歌唱分野では聴き合う活動を通して表現の工夫を行わせる。鑑賞分野では音楽的要素や特徴に気付けるよう聴くポイントを提示する。	表現や発言などにおいて、自信をもたせられるような活動を増やし、さらに意欲を高めていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様々な発声練習を継続していくこと、また、様々なジャンルの歌を歌うことで、技能を更に伸ばしていく。新しい題材でも既習事項と関連して考えさせたり、活用させたりすることを繰り返す、確実な力を身につけさせる。	鑑賞分野では感じ取ったことを発表したり、ワークシートに記入したりする活動において、教員が例を示したり、生徒同士の意見を共有したりして、聴き取ったことと感じ取ったことを関連付けて表現する力を養う。	どの活動においても高い意欲で取り組んでいるため、表現や発言などにおいて、自信をもたせられるような活動を増やし、さらに意欲を高めていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小グループでの活動や教え合い活動を通して、基礎的な技能の向上を図る。新しい題材でも既習事項と関連して考えさせたり、活用させたりすることを繰り返す、確実な力を身につけさせる。	歌唱表現の工夫において、表現しやすいポイントを絞り、自ら感じとれるような活動を増やすことで、実体験を通じ表現することに自信をつけさせる。	歌唱分野において、技能の向上を図るとともに、録画するなど自分たちの演奏を客観的に見て自信をつけられるような工夫を行う。鑑賞分野においては、感じ取ったことについて小グループで意見交換してから全体で共有するなど、発言しやすい雰囲気作りを心がける。

令和7年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICT 機器の活用がより効果的になり、個々の生徒の興味関心に応じた多様な学び方や表現方法の選択が可能になった。
- ・タブレットやデジタルツールを活用した鑑賞・記録・発表活動が日常化し、生徒の自己表現力・情報活用能力が向上した。
- ・従来型の学習活動を現代的視点で再構築することで、学びの深まりや感動の共有が生まれ、学習への内発的動機づけが強まった。

(2) 課題

- ・デジタルツールを活用した鑑賞・発表活動の指導法を体系化し、日常的に活用できる教材・指導素材を準備する。
- ・表現と鑑賞を往還的に結びつける授業構成を工夫し、生徒の発想力・構想力を高めながら、自己肯定感や表現意欲の向上につなげる。
- ・ICT 機器や視聴覚機器を用いた学習活動の質をさらに高め、生徒一人ひとりの理解や表現を支援する具体的な手立てを工夫する。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年			
第2学年			
第3学年			

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
色相環の制作やレタリングの課題を通して、基礎的な色彩知識を視覚的に理解することができた。また、漢字のデザインにおいては意味や形からイメージを膨らませ、独自の表現を加えながら創作する力が向上が伺えた。	漢字のデザインにおいては、用途や伝えたい雰囲気合わせた字体の工夫がなされており、視覚的に伝える力の向上を図ることができた。また、言葉の意味と形の両方を踏まえて表現を構想する力が高められた。	色相環の制作やレタリングでは、完成に向けて粘り強く作業を進める姿勢が育っていた。漢字のデザインでは友達どうしでアイデアを見せ合いながら互いに刺激を受け、学び合いの場が自然に生まれていた。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ロゴ制作の過程を通じて、視覚的な情報を簡潔に伝えるためのデザインの基本や配色・形の工夫について理解を深めることができた。実際の企業のロゴを参考にしながら、自分がやりたい事業の特徴を反映させたロゴを構成する力が養われた。	事業という設定の中で、どのような業種・サービスに対してどのようなロゴがふさわしいかを自ら考え、色・形・文字の選択に意味や意図を持たせた姿勢が見られた。制作と並行してアイデアを言語化する場面も多く、思考力・構想力が高められた。	自分が立ち上げる「事業」を想定するという課題設定により、意欲的に取り組む姿勢が見られた。仲間どうしで企業名やロゴの印象について意見を交わし合い、改善の工夫を重ねるなど、学び合いを通じた主体的な姿勢が育まれていた。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
和菓子の歴史や季節感、素材に関する事前学習を通して、伝統文化に根ざした造形表現についての理解を深めることができた。また、形状の調整や色付けの構成において、道具や材料を適切に扱い、細部まで工夫された仕上げが見られた。	季節や情景、味のイメージをどのように造形に落とし込むかという視点で構想を練り、見た人に想像を促すような作品を目指して、質感や配色にこだわりながら制作し、自らのテーマに基づく一貫した表現ができていた。	実在する和菓子の写真や資料を参考にしながらも、自分なりの創意工夫を加えることを楽しみながら制作していた。完成後には互いの作品を鑑賞し合い、感想や工夫点を共有するなど、活動全体を通して学び合う姿勢が育まれた。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
色や形、文字の構成などの基礎的な視覚要素について、実際に手を動かしながら理解できるような段階的な指導を行う。身近な事例や既成の作品を紹介しながら、基本的な技術と表現の目的との関係を丁寧に伝えることで、技術の習得と活用の幅を広げる。	自分の感じたことや伝えたいことを表現に反映させる力を育むために、活動のねがいやテーマについて考える時間や問いかけを充実させる。制作前にイメージを言語化するプロセスを丁寧にいき、表現の理由や工夫を自ら説明できる力を養う。	美術の活動に安心して楽しく取り組めるように、活動の見通しや手順を明確にし、小さな達成感を積み重ねられるように支援する。また、友人の表現の良さを見つけたり、意見を伝え合う活動を取り入れることで、互いに刺激し合いながら学ぶ姿勢を育てる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
表現の目的や意味を意識しながらデザインや造形の基本的な知識や技術を活用できるようにする。制作過程では、構成・配色・文字・形などの要素を意識的に扱えるように指導方法を工夫する。	伝えたいことやテーマに沿った表現ができるよう、制作前にイメージを構想したり言語化したりする活動を取り入れる。自分の意図をもって色や形、レイアウトを選び、他者に伝える作品を目指して工夫を重ねる。	興味・関心を引き出す導入や題材設定を行い、生徒自身が「自分ごと」として活動に取り入れられるようにする。制作中の気づきや思いを共有する場面を設定し、学び合いや協働的な関わりを通じて意欲を高める。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
より深い表現を目指して、これまでに習得した基礎的な知識・技能を生かせるようにする。表現手段や技法の選択肢を提示し、生徒が自分に合った方法で制作を進められるように支援する。	自分らしい表現やテーマ設定ができるように、構想段階でのアイデア出しや他者との意見交換を重視する。作品に込めた意図や工夫を言語化・共有する活動を取り入れ、表現の深まりにつなげる。	中学校生活の集大成として、学習の意味や自己の成長を振り返る場面を取り入れ、学びに対する内発的動機づけを促す。完成作品の発表や鑑賞活動を通じて、自己肯定感や達成感を実現できる授業を目指す。

令和7年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・運動量の確保や成功体験を積ませることにより、運動への意欲の向上を図ることができた。
- ・フルスクワット、腕立て伏せのトレーニングの継続により、大腿四頭筋、大胸筋、上腕筋の力が向上した。
- ・一人ひとりの課題に合った取り組みができる学習カードを活用し、課題を解決させることができた。

(2) 課題

- ・各種体力はついてきたが、それをどのように活用するか、思考判断表現すること。
- ・ICT機器を活用した、運動観察を通じた課題発見学習の展開。
- ・新体力テストで投げる力が伸び悩んでいる。巧緻性、筋パワーをつけること。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年			
第2学年			
第3学年			

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な技能の名称や、体育理論、自らの健康について理解できつつある。筋持久力、大腿四頭筋、大胸筋、上腕筋が弱い。	自らの課題を発見し、課題解決のための作戦、戦略を練る創意工夫がある。	主体的に筋力の強化、持久力の強化に取り組んでいる。効果がでているかは未知数。何のための集団行動か、考えて行動できている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な技能の名称や、体育理論、自らの健康について理解できつつある。筋持久力、大腿四頭筋、大胸筋、上腕筋が弱い。が徐々に向上してきている。	自らの課題を発見し、課題解決のための作戦、戦略を練る創意工夫がある。技術向上のために必要なトレーニングを自ら考えて取り組んでいる。	主体的に筋力の強化、持久力の強化に取り組んでいる。何のための集団行動か、考えて行動できている。走る力を向上するための努力をしている。スポーツを楽しむ姿勢がある。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な技能の名称や、体育理論、自らの健康について理解できている。短距離、長距離の力をもっている生徒が多い。筋力のある生徒とな	自らの課題を発見し、課題解決のための作戦、戦略を練る創意工夫が発展途上。技術向上のために必要なトレーニングを自ら考えて取り組	主体的に筋力の強化、持久力の強化に取り組んでいる。何のための集団行動か、考えて行動できている。走る力を向上するための努力をして

い生徒の差が大きい。筋持久力、大腿四頭筋の強化が実りつつある。大胸筋、上腕筋の強化が課題。	んでいる。	いる。
-----------------------------------------------	-------	-----

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各種スポーツの理論・知識を正しく理解する。また、技術のベースとなる基礎体力の強化が急務。特に、大腿四頭筋、大胸筋、上腕筋の強化を図る。球技においては、アジリティ、スペースへの働きかけが有効なのでその練習および強化を図る。学習指導要領に掲載されている技術の習得を図る。	各種スポーツを楽しむためには、やみくもに競技に取り組んでいても効果が薄い。記録更新、試合に勝つためには、どのような練習計画があるか、どのような戦略・作戦があるか創意工夫できるようにする。	各種スポーツで楽しむためには、「体力・技術・心」をバランスよくもつ必要がある。この3つの力を向上させる努力ができるよう、その環境づくりを行う。また、安全に取り組めるようにするためには、規律ある集団行動が大切で、すべての授業の根本とする部分である。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各種スポーツの理論・知識を正しく理解する。また、技術のベースとなる基礎体力の強化をさらに図る。特に、大腿四頭筋、大胸筋、上腕筋の強化を図る。球技においては、アジリティ、スペースへの働きかけが有効なのでその練習および強化を図る。学習指導要領に掲載されている技術の習得を図る。	各種スポーツを楽しむためには、やみくもに競技に取り組んでいても効果が薄い。記録更新、試合に勝つためには、どのような練習計画があるか、どのような戦略・作戦があるか創意工夫できるようにする。	各種スポーツで楽しむためには、「体力・技術・心」をバランスよくもつ必要がある。この3つの力を向上させる努力ができるよう、その環境づくりを行う。また、安全に取り組めるようにするためには、規律ある集団行動が大切で、すべての授業の根本とする部分である。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各種スポーツの理論・知識を正しく理解する。また、技術のベースとなる基礎体力の強化をさらに図る。特に、大腿四頭筋、大胸筋、上腕筋の強化を図る。球技においては、アジリティ、スペースへの働きかけが有効なのでその練習および強化を図る。学習指導要領に掲載されている技術の習得を図る。	各種スポーツを楽しむためには、やみくもに競技に取り組んでいても効果が薄い。記録更新、試合に勝つためには、どのような練習計画があるか、どのような戦略・作戦があるか創意工夫できるようにする。	各種スポーツで楽しむためには、「体力・技術・心」をバランスよくもつ必要がある。この3つの力を向上させる努力ができるよう、その環境づくりを行う。また、安全に取り組めるようにするためには、規律ある集団行動が大切で、すべての授業の根本とする部分である。

令和7年度 技術科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICT機器の活用により学習効果を高めることが出来た。
- ・基本工具の使用技能を高めることができた。(工具の使用目的や使用条件をより分かりやすく解説、師範により実際に使用する際のイメージをもたせて実習に取り組むなどの工夫による)
- ・作品の完成度を向上することができた。(模範作品の提示、実習ポイントの明確化などの工夫による)
- ・ノートの取り方を工夫し、学習のまとめを行える習慣が定着した。

(2) 課題

- ・授業ごとに製作や実習の記録を残すことで、生徒の自主性や主体性をより高める。
- ・製作の際は、作業工程別に進捗を可視化することで効率を上げる。
- ・パソコンを活用して効率よく調べる技術を身につける。
- ・ノートやプリントを個別に確認することで、知識・理解の定着を図る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年			
第2学年			
第3学年			

(2) 分析(観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
構想の表示方法についての知識を身に付けている。工具や機器を安全に使用できる。	よりよい社会を築くために、材料と加工に関する技術の課題を明確にし、適切な解決策を見いだしている。	よりよい社会を築くために、材料と加工に関する技術を適切に評価し活用しようとしている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
エネルギー変換に関する技術を適切に評価し活用しようとしている。製作品の組み立てや点検ができる。	使用目的について製作品の構造を工夫している。	よりよい社会を築くために、エネルギー変換に関する技術についての知識を身に付けている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
パソコンの特徴と利用についての知識を身につけている。適切なソフトウェアを用いて表現できる。	使用目的や使用条件に関して作品の設計を工夫している。	情報に関する技術を身につけ、知的財産を創造・活用しようとしている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
より安全な生活や社会の実現する材料と加工の技術の在り方について話し合い、自分の考えを発表することができるようにする。	材料と加工の技術が安全な生活や社会の実現に果たす役割や影響を踏まえ、材料と加工の技術の概念を説明できるようにする。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、情報の技術を工夫し創造するようになる。情報に関する技術を身につけ、知的財産を創造・活用しようとしている。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
エネルギー変換についての科学的な原理・法則とエネルギー変換の基礎的な技術の仕組みを説明できるようにする。	エネルギー変換の技術に込められた工夫を読み取り、エネルギー変換の技術の見方・考え方に気付くことができるようにする。	進んでエネルギー変換の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けるようにする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
よりよい生活の現実や持続可能な社会の構築に向けた情報の技術による問題の解決について、自分の考えを発表できるようにする。	情報の技術がよりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に果たす役割や影響を踏まえて、情報の技術の概念を説明できるようにする。	情報に関する技術を身につけ、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて情報の技術を工夫創造するようになる。

令和7年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・生活や技術に対するの関心を持ち、意欲的な取り組みが見られる。
- ・基本的な生活能力を実践的に活かせるように身近な生活と結びつけることができた。
- ・製作や実習に際し、作業手順をイメージすることや基本的な技能が身についた。
- ・ノートの取り方を工夫し、学習のまとめを行える習慣が定着した。
- ・視聴覚教材、ICT 機器の活用により学習効果を高めることが出来た。

(2) 課題

- ・製作や実習の際には、協働作業を大切にし、課題解決に主体的に取り組む態度を養う。
- ・製作の際、作業工程別に進捗を可視化することで効率を上げ達成感を得られるようにする。
- ・パソコンを活用して調べ学習等、効率的に行えるようにしプレゼンテーション能力を高める。
- ・持続可能な社会の構築の視点から、環境保全に寄与する態度を身に付けることを育成する。
- ・安全面・衛生面に十分な配慮をしつつ調理実習を行っていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	/	/	/
第2学年	/	/	/
第3学年	/	/	/

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
衣服の着用、洗濯、手入れについて理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。	中学生の食生活と栄養について課題を見つけ、その解決を目指して工夫している。製作に必要な基本的な技能を身に付け、安全に作業することができる。	小学校の学習を振り返り、3年間の見通しをもって学習に取り組もうとしている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食品の栄養的特質について理解し、食品群や食品群別摂取量の目安について理解している。	衣生活や住生活を豊かにするための製作品を考え、製作計画や方法について工夫している。	日常食の献立と食品の選び方について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
幼児の生活と家族、消費生活、環境とのかかわりについて理解し、基本的な知識を身に付けている。	自分や家族の消費生活を点検し、環境に配慮した消費生活について考える工夫している。	自分の成長や生活は、家族やそれに関わる人々に支えられてきたことに気付いている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学生に必要な栄養を満たす食事について理解するとともに、地域の食文化について理解するとともに、日常食や地域の食材を生かした調理に関する基本的な知識を身に付ける。	衣服の材料や汚れ方に応じた方法で日常着の洗濯ができるようにする。製作の際は、手順書を読み解き、立体をイメージしながら作業できるようにする。	衣服の着用、選択、手入れについて関心をもって学習活動に取り組み、衣生活をよりよくしようとする。製作については、工夫し創造し、実践する力を身に付ける。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法について理解する。日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解しているとともに適切に選択できるようにする。	1日分の献立について課題を見つけ、必要な栄養量を満たすために料理や食品の組み合わせができるようにする。製作に必要な技術を身に付け、作業効率も意識しながら、安全に布を用いた物の製作をできるようにする。	自分の食生活に関心を持ち、健康によい食習慣について考え、日常生活で実践する。家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、工夫し創造し、実践する力を身に付ける。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学生に関わりの深い販売方法の特徴について理解し、購入に関する知識を身に付ける。自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解できるようにする。	幼児の遊びや幼児の発達と家族との関わりなどについて理解を深める。環境に配慮した消費生活について課題を見つけ、その解決を目指して自分なりに工夫し創造する。	幼児の生活と家族について関心をもって学習活動に取り組み、よりよい生活の実現に向けて、社会や環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践する力を身に付ける。

令和7年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・2年生は、ほぼ全ての領域で目標値を上回っている。特にリスニングの問題では目標値を大きく上回っていた。毎時間でデジタル教材やALT、生徒同士のスモールトーク等の活用の成果がみられる。
- ・3年生は、ほぼ全ての領域で目標値を上回っている。リスニングや語法の問題では目標値を上回っていた。学習者用端末の活用や授業でデジタル教材の活用やALTとの活動を日々行った成果がみられる。

(2) 課題

- ・1年生は全て目標値を上回っているものの、領域によって大きく上回ったものと、そうでないものがあり、領域ごとの能力差が見られた。特に「アルファベットの読み（聞く）」や「英作文」の問題の正答率が目標値に近い数値であったため、それらの力をより伸ばすことが今後の課題である。
- ・2年生は目標値を上回っているものの、場面に応じて書く英作文や、3文以上の英作文等書くことについての問題で目標値を下回っているものが見受けられた。今後、間違いを恐れず書こうとする、4技能を統合した、聞く・話すことから読む・書くことにつなげることが課題である。
- ・3年生は対話の流れに合った英文を相手に伝わるように書く問題（活用）で目標値を下回っていた。対話文の内容を理解し、場面に応じた内容で書く力を伸ばしていくことが今後の課題である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	上回っている		
第2学年	前年度より3.6ポイント 下回っている	上回っている (第1学年時)	
第3学年	前年度より5.9ポイント 上回っている	前年度より4ポイント 下回っている (第2学年時)	上回っている (第1学年時)

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校で学んだ基礎的な文法・単語について、より定着を図り、それらを活用できるようにする必要がある。	「英文の読みとり (聞く)」や「英作文」について、目標値を上回っているものの、より力を高める必要がある。	令和7年度より比較データなし

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
英語の音声や語彙の知識は、理解できているが、文法の特質について課題がある。語順や品詞、文法を意識させる必要がある。	対話文や英文の内容を読み取る項目は目標値を上回っているが、書く力を高めることが今後の課題である。	令和7年度より比較データなし

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
英語の音声や文法の特質を理解できるようになっているが、今後、さらに語彙を増やすなど知識を高める必要がある。	基礎的な問題では必要な情報を聞き取ることができている。今後、活用の問題も解くことができるよう改善に努める。	令和7年度より比較データなし

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「話すこと」はできるが、それを「書くこと」に苦手意識を持つ様子も見受けられるため、そのギャップを埋める活動を行い、書く力を身につけさせる。	自分の話したいことを英語で伝える力を更に伸ばすことができるよう、場面や目標を明確に示し、英語で伝え合う活動の機会を増やす。	ICT 機器も活用しながら、生徒が自ら学習に取り組むことができるように工夫する。今後も生徒が状況に即し英語で自己表現しようとする機会を設ける。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
パターンプラクティスや音読練習の機会を多く設けることで語彙や品詞、文法の定着をはかり、英語を正しく発音したり、書いたりする力を身につけられるようにする。	英語で自己表現する機会を帯活動やスピーチ発表等として継続し、その内容をまとまりのある英文で書き、話すことから書くことにつながる活動を増やす。	ICT 機器を活用しながら、生徒が自ら学習に取り組むことができるように工夫する。今後も生徒が状況に即し、英語で自己表現しようとする機会を設ける。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ドリルパークやワークブック等で繰り返し文法の定着を図る。長文ドリルを通して語彙力を高め、正確な英文を書く力につなげる。	英文から必要な情報を読み (危機) 取る練習や、目的・場面・状況に応じて描く (話す) 練習を重ね、学んだ地識を話す・書く力に活用できるようにする。	ALT や ICT 機器を活用しながら、生徒自ら学習に取り組むことができるように工夫する。今後も生徒が状況に即し、英語で豊かな自己表現ができる機会を設ける。